

太田黒伴雄 熊本藩士・神官。文明開化に反対する旧士族グループ(神風連)を率いて反乱を起こし、敗れて自刃。

おおたぐるともお

滑稽+人情本 1835 = 熊本藩飯田熊助の次男に生まれ、

大塩平八郎乱 1837 = 2歳 :

同藩の下士大野家に入り大野鉄兵衛と称した。

天保改革終・1844 = **9歳** :

阿部正弘首座 1845 = 10歳 :

ペリー来航・1853 = **18歳** :

江戸藩邸に勤務して朱子学のち陽明学を学び、

帰藩後、国学者林桜園の門に入り、尊王攘夷運動に投じ、のちに池田屋事件で斃れた宮部鼎蔵らの先輩にも重んぜられ、また河上彦斎・加屋舞堅らともっとも親しく、

桜田門外変・1860 = 25歳 :

生麦事件・・1862 = **27歳** :

禁門の変・・1864 = 29歳 : **投獄・釈放後、神官を志し、飽田郡内田村(熊本県飽託郡天明町)の新開大神宮の祠官太田黒氏に入婿。**

明治維新・・1868 = 33歳 :

初の日刊新聞 1870 = 35歳 : 三条実美の徵命で上京する師の桜園に随行し、桜園は老年病身のゆえを以て後事を太田黒ほか1名の門生にゆだねることを岩倉具視に言上したが、神道家の太田黒が新政府に受け入れられる余地はなく、太田黒もこれを好まず、*もっぱら郷里にあって亡師の衣鉢をついでその国学と敬神思想を説き、

廃藩置県・・1871 = **36歳** :

明治6年政変 1873 = 37歳 : *下士出身の多数の旧藩士族の信望を集め、敬神党または神風連と呼ばれるに至る。

三つの内乱・1876 = 41歳 :

*廃刀令、つづく断髪令に神風連の悲憤は極点に達するが、太田黒は極力これを慰撫し、神意があれば起つとし、ついに神意があったとして、挙兵。みずから本隊の首将として砲兵大隊攻撃の指揮をとり、これを占領し、さらに歩兵営攻撃を増援したが、鎮台兵の反撃によって苦戦におちいり、銃弾を胸に受けて重傷を負い、後退して近くの茶店に入り、義弟大野昇雄の介錯により死についた。